

資料① 「ひいおばあちゃんのひらがなノート」 ある6年生の日記より

「このノート書いたの誰。」

わたしは、ばあばのおうちで、古いノートを見つけました。びっしりとひらがなが書かれていました。えんぴつのがとがくつきり付いています。力を入れて練習しているのがすぐに分かりました。

「それは、ヨネおばあちゃんのノートだよ。ばあばの宝物なの。」

ヨネおばあちゃんは、わたしのひいおばあちゃんです。つまり、ばあばのお母さんということになります。どうして宝物なのだろうとわたしは思いました。すると、ばあばは、ヨネおばあちゃんがどうしてひらがなを練習していたのか教えてくれました。

ヨネおばあちゃんは、小さいころ、家がまずしくて学校に行けなかったそうです。近所のお友達は教科書を買ってもらえましたが、ヨネおばあちゃんは8人きょうだいの一番上で、がまんしなければならぬことが多かったそうです。下の子の子守もあり、学校に行く時間ありませんでした。お父さんとお母さんは朝から晩まで働いていたので、少しでも力になりたいと、勉強したかったけど、あきらめたそうです。

ヨネおばあちゃんが60歳さいになったころ、公民館で識字学級しきじがっきゅうが始まったそうです。「識字学級」というのは、差別ひんこんや貧困で、学校に行きたくても行けずに文字を学べなかった人たちが、字を学びに行く教室です。昼間は働いて、週に2回、夜に勉強しに行っていたそうです。

ヨネおばあちゃんは、「ひらがなを書いたり、読んだりできるようになると、毎日が楽しい。」って言って、家でもひらがなの練習をしていたそうです。

「どんなにつかれた日でも、えんぴつのはしがおれるぐらい力を入れて練習していたよ。ヨネおばあちゃんの姿を思い出すと、ばあばは元気がわいてくるんだよ。」

ばあばは、ノートを大事そうにめくりながら言いました。

わたしは、とてもうれしい気持ちになりました。ヨネおばあちゃんは、わたしが1年生のころになくなりましたが、今でも、家族みんなヨネおばあちゃんが大すきです。

「ばあば、わたしも、何だか元気がわいてきたよ。」

わたしは、ばあばに向かってガッツポーズをしました。

日本には、差別や貧困等により、学校に行きたくても行けなくて文字を学べなかった人たちがいます。文字の読み書きができないことで、安定した仕事につくことなどが保障されてきませんでした。このような実態を受け、「差別によってうばわれた文字を取りもどす」ために、全国各地で文字を学ぶ運動が展開されました。この運動の成果で、昭和38年(1963年)、初めて福岡県に識字学級が開設され、やがて鹿児島県など全国に広がっていきました。

## ※授業者用補助資料

### 識字学級の歩み

#### 識字って、どんな意味があるの？

新聞、雑誌、広告、看板、標識、値札など、私たちの身の回りには文字があふれています。そして、私たちは、その文字を読むことを通して、様々な情報や知識を得ています。また、文字を使って、自分の気持ちや考えなどの伝えたいことを発信しています。

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）では、「日常生活で用いられる簡単で短い文章を理解して、読み書きできること」を「識字」としています。

「電車やバスに乗る時に行き先が分からない。病院や役場へ行っても住所と名前を書くことができない。買い物に行っても商品の成分が分からない。運転免許をとりたくても、問題の意味が分からない。選挙に行きたくても字を書くことができないため、投票をあきらめる。」など、文字の読み書きができないことは、人間として必要な最低限の文化的な生活を奪われることとなります。

#### なぜ、識字学級ができたの？

日本では、差別や貧困によって、小さいときから子守をしたり家業を手伝ったりするなど、学校に行きたくても学ぶ機会を奪われて文字を学べなかった人たちがいます。社会生活を営む上で大切な、教育を受ける権利や安定した仕事に就くことなどが保障されてこなかったのです。このような実態から、差別によって奪われた文字を取りもどすために文字を学ぶ運動が各地で展開されて、昭和38年（1963年）、福岡県で日本で初めて識字学級が開設され、鹿児島県をはじめとして全国に広まっていきました。

#### 識字学級は今どうなっているの？

識字学級生の高齢化や、日本の国際化が進む中で、識字学級は様々な人たちの学びの場へと変わってきています。戦争や差別、貧困などの理由で教育を受ける機会を奪われた人たちだけでなく、外国から日本に来た人たちなどが、識字学級（識字教室）で文字や言葉を学び、様々な力を獲得しながら、周囲の人々や社会とのつながりを深め、多文化共生の場になっているところもあります。

識字は、単に文字や言葉を習得するだけの取組ではなく、人として豊かに生きていく力を取りもどすことにもつながるのです。識字学級で学び、自分の人生を豊かに広げようとするその前向きな姿勢やたくましさから、私たちは多くのことを学ぶことができます。

## ※授業者用補助資料

### 【ゴール4について】

※ 既習事項の中でSDGsを取り上げることもできる。



- ・ 2030年までに、男の子も女の子も全ての子どもが、しっかり学ぶことのできる、公平で質の高い教育を無料で受け、小学校と中学校を卒業できるようにする。
- ・ 2030年までに、全ての人が、男女の区別なく、無理なくはらえる金額で、技術や職業に関する教育や、大学をふくめた高等教育を受けられるようにする。
- ・ 2030年までに、はたらきがいのある人間らしい仕事についたり、新しく会社をおこしたりできるように、仕事をするために必要な技術や能力をそなえた若者やおとなをたくさん増やす。
- ・ 2030年までに、教育のなかでの男女の差別をなくす。障害があったり、先住民族だったり、特にきびしい暮らしをしている子どもでも、あらゆる教育や、職業訓練を受けることができるようにする。
- ・ 2030年までに、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活のしかた、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。



出典： 公益財団法人 日本ユニセフ協会

### 【日本国憲法 第26条（教育を受ける権利、義務教育の無償）】

すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

2 すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

## 【教科書の値段】

教科書の定価認可基準の一部を改正する件（令和6年1月29日 文部科学省）

教科	種目	定価の最高額（単位 円）					
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	国語	776	894	894	715	715	715
	書写	172	172	172	172	172	172
社会	社会			747	747	715	776
	地図			507			
算数	算数	352	715	834	661	715	715
理科	理科			686	948	1,049	1,049
生活	生活	1,911					
音楽	音楽	236	236	236	236	236	236
図画工作	図画工作	469		469		469	
家庭	家庭					301	
体育	保健			229		229	
外国語	英語					365	365
特別の教科	道徳	333	363	401	419	441	458
合計		3,780	2,849	5,175	3,898	5,407	4,486

※ 生活科は第1学年で合計、地図は第3学年で合計、図画工作と保健は第3学年、第5学年で合計。家庭は第5学年で合計。全ての学年を合計すると、25,595円となる。

## 【学校基本調査（学年別児童数）】



### 令和5年度 全国の児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
962,507	997,169	1,005,472	1,015,490	1,026,579	1,042,468	6,049,685

### 令和5年度 鹿児島県の児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
13,536	14,026	14,250	14,337	14,785	15,020	85,954

令和5年度の児童数で計算した教科書の購入金額（全国）

学 年	児童数合計(人)	教科書の購入金額(円)
第1学年	962,507	3,638,276,460
第2学年	997,169	2,840,934,481
第3学年	1,005,472	5,203,317,600
第4学年	1,015,490	3,958,380,020
第5学年	1,026,579	5,550,712,653
第6学年	1,042,468	4,676,511,448
合 計	6,049,685	25,868,132,662

令和5年度の児童数で計算した教科書の購入金額（鹿児島県）

学 年	児童数合計(人)	教科書の購入金額(円)
第1学年	13,536	51,166,080
第2学年	14,026	39,960,074
第3学年	14,250	73,743,750
第4学年	14,337	58,458,306
第5学年	14,785	79,942,495
第6学年	15,020	67,379,720
合 計	85,954	370,650,425